

会 議 録

日 時 平成 26 年 10 月 31 日（金）午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分

場 所 東浦町文化センター 実習室

出席者 社会教育委員 川澄知里、石原弘幸、田頭美紗子、松下玲子、天野圭二、
中村建志郎、中村浩二、久米 弘、平井伸幸、神谷真由美
事務局 教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、
スポーツ課長、生涯学習課長補佐、資料館係長、
生涯学習指導員

欠席者 鈴木万里子委員

議 題 1 平成 27 年度東海北陸社会教育研究大会愛知大会での発表について
2 その他

傍聴者 なし

審議内容

生涯学習課長

恒川委員が東浦町教育長に就任されたので、東浦町社会教育委員会は今後は 11 名で活動をしていく。次第に従い会を進める。挨拶をいただく。

委員長

1 日の中で寒暖差が大きいので体調管理に留意を。東海北陸社会教育研究大会石川大会には川澄委員・事務局と共に 3 名で参加した。大会から学んだことを東浦町の活動にも生かしていきたい。第 1 分科会では、社会教育委員はいずれも各種団体を代表して選出されていた。しかし、活動の中身は市町により多様であった。本日は、教育長さんには社会教育委員のあり方についてご指導いただきたい。

教育長

学校勤務を終えてから 2 年半で十分に充電した。教育長の責務を果たしていきたい。東海北陸研究大会に参加した成果を今後の活動に生かしていきたい。教育長になって約 1 か月の間に多くの行事や会に参加した。取り組みがやや固定的であったり視野が狭くなっていたりする場合があることに気付いた。その一方で変わりつつある行事も出てきている。10 月 26 日に出席した「明日の図書館を考えるシンポジウム」では、固定観念にとらわれず住民の意見を取り入れて新しいあり方を求めていくことの大切さが強調されていた。社会教育委員には、各種活動や行事に対して、トータルで東浦を見たり、生涯学習という長いスパンの視点で見たりして、今後とも積極的な助言・提言をしていただきたい。

委員長

次第に従い、議事を進める。1 号議案について事務局から説明を求める。

事務局 議事資料を説明。

[質疑・意見交換]

委員長

素案の文章量が多いが、石川大会では資料 4 のように分量は少なく発表時間も 20 分と簡素であった。本日の協議では、素案への意見、作業日程の適否、本主題に関わる新たな取り組み例の申し出も含めた原稿依頼者の検討の 3 点について進める。

委員

県指定無形民俗文化財である東浦五か村虫供養行事を伝統行事の項目に追加し、ま

ちづくり活動では、生路地区の活動を素材にして全町に広げた記述にしてはどうか。
委員

素案は練り上げがまだ不足している。「はじめに」では研究の方向性をしっかり出したい。1 現状認識（孤立化の傾向）、2 当面の課題（絆づくり、人間関係づくり）、3 課題へのアプローチ（地域の伝統行事や於大まつりの継承と発展）、4 まとめ（社会教育委員として生涯学習の人づくりや地域づくりの担い手を育てることに関わっていく）、と整理してはどうか。「各種団体の中核者として関わる」には違和感がある。

委員長

平成25年度第2回委員会において、委員会活動は教育委員会からの諮問に対する答申が主であるため、それぞれの委員が関わりを持っている於大まつりを素材にして発表することで合意されている。委員の実践活動として、於大まつりに対して意見を提示したり、発表案を皆で練り上げたりすることも大切な活動である。「中核者として関わる」などの表現はさらに適切な表現の選択が必要である。

委員

東浦町の特徴として外国の子が多いことも提示し、外国の子への図書館での本の貸し出しの支援、ボランティアとしての日本語教室の実施なども紹介してはどうか。

事務局

貴重な意見である。委員で素案を練り上げる上で参考にしていただきたい。

委員長

東浦町の概要の項目に、町の特徴として加えることもできる。

委員

「孤立化の傾向が広がっている。本町でも日本の生活習慣になじめない人が多い。それ故に、町としても仲間づくり絆づくりをしている」などと組み入れてはどうか。

委員

発表では、於大まつりの紹介ではなく、まつりに社会教育委員がどのように関わっているかを提示したい。自分は少ないが他の委員は、どの程度関わっているのか。

委員

- ・参加する立場で関わっている。遠方で参加しづらい住民も参加しやすくする配慮を求める提言などを委員の立場で行い関わることも大切と考える。
- ・町外の人に対して東浦町を代表するまつりとして紹介している。
- ・小学生のパレード、中学生のボランティア活動を通して組織として関わっている。
- ・現状はあまり関わっていない。

教育長

東浦中学校では毎年まつり前後の散策路の清掃をしてまつりに関わっている。

委員

北部中学校も清掃をしている。

委員長

はじめは自治会の代表として関わり、次はよろいの会で関わってきた。町全体のまつりであるという認識を町民の間にさらに広げ、まつりを通して人づくり、絆づくりにつなげていかねばならない。研究大会において於大まつりを発表することは、まつりの周知そしてまつりの新たな出発につながる。

事務局

東海北陸石川大会の発表要項を見る限りでは、社会教育委員が自ら主となって行っ

た実践の発表は少ない。於大まつりを発表素材として取り上げることは、本町活動の周知にもなり適切である。

委員

研究大会を町活動の広報の場としていくことは理解できる。発表の立ち位置をはっきりさせ、第3分科会主題「地域文化の振興」に従って、発表内容を絞り込みたい。

委員

研究主題にある「絆づくり」をメインとし、そこに至る手立てとして、まちづくりや伝統行事の継承を示し、それらに社会教育委員がどのように関わっていくかを述べればよいのではないか。

委員

素案には賛成。ただ、絆づくりを主として、於大まつりやまちづくりを手段と考えるなど目的と手段をはっきりさせたい。

委員長

本日出された意見を踏まえて、事務局はさらに素案の練り上げを。作業日程については提案通りで進める。補説原稿作成者については虫供養を加える以外は提案に従う。伝統行事の項目に虫供養も含めるが、原稿依頼者は提案通り4名でよい。

委員

当日の大会要項の文章の分量はどの程度か。

事務局

提案素案は要項原稿ではなくは発表したい内容を文にしたものである。大会要項にはここから抜粋した文章を掲載することになる。

事務局

作業日程・協議内容の再確認、及び、写真の添付、長文を避ける等の補説原稿提出時の留意事項を説明。

委員長

第3回委員会では補説も含めた素案を出す。そこで出た意見を基に要項原稿作成に取りかかり、27年度第1回委員会に要項原稿は提示する。発表者は今後決めていく。

事務局

第3回委員会では、要項原稿ではなくその基になる全体原稿を提示する予定である。

委員長

第1号議案へのさらなる意見がないことを確認し第1号議案の審議終了を宣告。

第2号議案「その他」について予定がないことを確認し、議事の終了を宣告。

生涯学習課長

次回の第3回委員会は平成27年3月16日（月）午前10時開催を連絡し、午前11時45分に閉会を宣告。

備考 なし